

神戸ことはじめ

— 外国人のいた風景 —



『Illustrated London News』1868.3.14号より「THE PORT OF HIOGO…」



「(非条約国民登録証)」(神戸開港文書)



「(遊園地敷地として道路縮小につき要請)」(神戸開港文書)



『INAKA』Vol.13(1920)より



『神戸瓦斯四十年史』(1940)より「瓦斯燈点火の圖」



『神戸の港兵庫の都』(1891)より「神戸運動場」



『INAKA』Vol.13(1920)より「ROKKOSAN FOR EVER.」

2011年10月21日(金)～12月20日(火)

会場：神戸大学附属図書館 社会科学系図書館【2階展示コーナー】
 展示時間：月～金曜日／ 8：45～21：30
 土～日曜日／ 10：00～19：00(祝日・第1日曜日を除く)
 交通：阪神「御影」・JR「六甲道」・阪急「六甲」の各駅から市バス36系統
 神大正門前下車約5分

神戸大学附属図書館 社会科学系図書館
 〒657-8501 神戸市灘区六甲台町2-1
 問合せ先：情報リテラシー係 TEL：078-803-5313
 e-mail：literacy@lib.kobe-u.ac.jp

入場無料



神戸ことはじめ

— 外国人のいた風景 —

現在、神戸大学は教育・研究とならぶ第三の使命として地域・社会との連携協力にも力を注いでいます。附属図書館でも、所蔵する貴重な資料を地域のみならずにもご覧いただきたいと思います。平成16年度から展示会活動をはじめ、今年で8年目となりました。

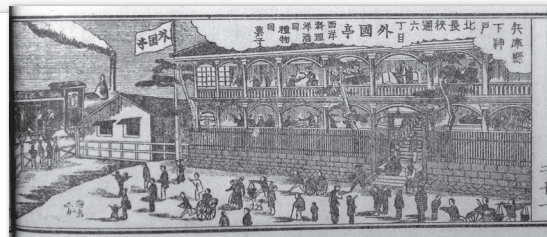
本年は、「神戸ことはじめ」と題し、開港から昭和初期にいたる神戸に関する資料を、当館を代表する資料コレクション「神戸開港文書」や「新聞記事文庫」、その他所蔵資料から展示します。今回は特に、当時神戸にやって来て活躍した外国人に焦点を当て、彼らの足跡や担い培ったものを通し、神戸の黎明・発展期における特色の一端を紹介します。

多数のご来場をお待ちしております。

展示内容

1. 舞台としての居留地

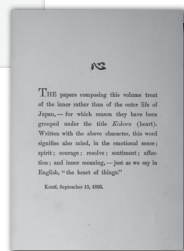
開港にともない、神戸にやってくる外国人たちの居住・貿易の場として、外国人居留地が設けられました。実際に使われた文書をはじめ、地図や挿絵も交えて、当時の神戸・居留地の様子や文化、人々の生活について紹介します。



『湊の魁：豪商神兵』

2. 神戸ゆかりの外国人たち

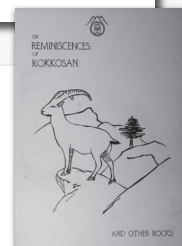
開港以降、神戸では多くの外国人が行き交うようになりました。日本文化を愛した文筆家の小泉八雲やモラエス、現在の産業に通じる事業を興した E・H・ハンター（造船業）やウォルシュ兄弟（製紙業）といった人物の活躍と、神戸との関わりを紹介します。



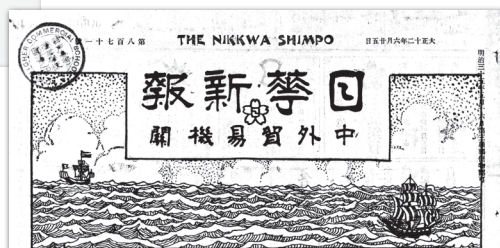
L.ハーン『Kokoro』

3. 六甲山の開発とスポーツ

日本初のゴルフ場は六甲山上に別荘を建てた外国人によって創設されました。六甲山が開かれると彼らは登山を楽しみ、居留地横のグラウンドでは様々なスポーツが行われました。日本近代スポーツの源流ともいわれる彼らの活躍と当時の様子を紹介します。



『INAKA』



『日華新報』題字

4. 神戸華僑のはじまりと活躍

来神した外国人として、華僑の存在を忘れてはなりません。その歴史のはじまりから、一大財閥を築いた華僑商人、さらに辛亥革命 100 周年に因んで、孫文を支えた神戸華僑たちの足跡を紹介します。

「神戸開港文書」とは

神戸大学附属図書館が所蔵する、伊藤博文の神戸港に関する文書を始め、神戸港開港当時に港近くの庄屋が持っていた資料などを含む、神戸港開港関係の資料コレクションです。

2000（平成12）年から本格的な整理に着手し、「神戸大学附属図書館 デジタルアーカイブ 神戸開港文書」として、全1129点のうち、現在未整理なものを除いた1128点について、資料の画像をインターネットを通じ公開しています。